

50号を顧みて

加藤 正信



紙のスポーツ欄だけが頼りである。サッカーマガジンが全国で十数万部も売れているのは、サッカーファンが情報に飢えているからにちがいない。

神戸市サッカー協会は47年2月6日に再出発したが、活動の第一歩は月刊「神戸のサッカー」を発行して、市民の皆さんに情報を届けることから始まった。47年5月、創刊号を発行してから49年12月までに、編集部都合で8回の合併号を出したが、50年1月号からは1



回も休むことなく毎月刊行して、本紙で50号を迎えることになった。5年間を顧み、後々への記録ともなるので、あえて内部事情も書いておきたい。

第1号から今日まで発行に携わっている筆者は47年の春、清水市に堀田哲爾理事長を訪ね、少年サッカー先進地を見学したことがある。筆者が「清水市のサッカー興隆は堀田氏を中心とする少年サッカー指導者陣の熱意によるものだが、そのアシスト役は清水のニュース(注：今日の静岡ユースサッカーで4月で56号になる)ではないか」と尋ねたところ、その答えは「清水のユースは兵庫サッカー友の会(46年3月神戸フットボールに改組と



温かいご支援を

会員募集 日本サッカー後援会

ワールドスポーツとして最大の規模を誇るサッカーは、今やわが国のいたるところに浸透し、日本スポーツ界の中でも有数なスポーツとして定着しつつあります。しかし残念ながら、わが国のサッカーのレベルは世界に比べ、まだ及ばないのが現状であります。そこで、ようやく根づいたサッカーの底辺をいま以上に広げ、その中から世界に通用する選手を多く育てる夢。これはサッカーを愛する者に共通した願ではないでしょうか。一方、サッカー界の財政をみると、日本サッカーの活動を強力に推進するためには、

ともに廃刊となったがニュース27回を発行している)とKFCのニュース(現在23号、友の会第1号会報から通算50号)にヒントを得た」とのことで、面くうらやましい顔をほころばせたりしたのであった。神戸のサッカーの編集方針は51年2月号に書いたように次の5つに尽きる。

わたくしたちはサッカーニュースを届けます
わたくしたちは青少年のサッカーを育てます
わたくしたちはサッカー仲間の手を結びます
わたくしたちは市民のサッカー熱を高めます
わたくしたちはサッカー王国兵庫を築きます

静岡ユースサッカーの内容は、あくまで高校生以下の少年サッカーの育成を柱としている。清水では20年前から少年サッカーの普及振興に取り組み、今日もその姿勢を少しもくずしていない。神戸の少年サッカーの歴史は浅くまだ10年に過ぎず、清水を代表とする静岡や浦和、広島等に追いつき追いつくには非常な努力が必要である。「神戸のサッカー」は当初、少年サッカーのみを記事とする方針をとった。しかし、最近になって神戸市社会人委員会からの強い要望もあり、社会人関係のニュースも取り上げている。

ニュース発行には編集と資金の面で難問が多い。編集に関してはいささか自画自賛のきらいがあつて恐縮だが、最初は主として辻豊が、近ごろは上野勝幸が編集主任として取材をとりまとめ、7名の委員で構成される編集会議にかけ、レイアウトから校正に至るまで余暇をさいて編集に努力している。

一方、資金の面では最初赤字時代が続き、編集委員が広告集めにも奔走したが、50年1月号からは日本ペプシコ株式会社の協賛もあつて、黒字経営が可能となつていのはありが

誠に心もとないと思われるのが実情です。このような趣旨のもとで有志が集まって、日本サッカー後援会を昨年組織しましたが、より多くの方々のご賛同を求めています。会員申し込みご希望の方は次のところまでご連絡ください。

〒657 神戸市灘区篠原南町2丁目4-31
中村寿男 ☎078-861-7069(自宅)

会費...1人1年間につき1口(10,000円)から会員の特典

1. JFAニュースの無料購読
2. 講演会、映画会、激励会、報告会などへの優待入場。
3. 国内における日本協会およびその所属協会主催による有料試合への優待入場。

写真はオリンピック予選 日本-韓国戦より、51年3月21日 国立競技場

個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として50円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。
〒657 神戸市灘区上野通6丁目3-12
加藤 正信 ☎078(861)3100
なお、数名分をまとめて申し込まれる場合は、郵送料の割引がありますのでご連絡ください。



たい。昨年の秋に行われた郵便料金の大幅な値上げも、50年10月第3種郵便物の認可を得ているので、何とか切り抜けることができた。将来の夢は発行部数を現在の一万部から十数万部に、そして旬刊にしたいことである。本紙の名称は「神戸のサッカー」となっているが、兵庫県全体のサッカー情報を収録して、サッカー王国兵庫・神戸の再現の一端に奉仕したい。そのためにはやはり少年サッカー関係の記事を大切に扱い、神戸の少年サッカー初期の指導者が、日本ユース代表選手の桜木浩二君を育て上げたように、今後日本を背負って立つ青少年が次々に生まれるよう祈念したい。

神戸中央球技場だより



4月3日(日)	関西社会人リーグ	12:00
4月10日(日)	兵庫県社会人リーグ	11:00
4月24日(日)	関西社会人リーグ	12:00
4月29日(祝)	兵庫県社会人リーグ	10:00
5月8日(日)	神戸市民大会 決勝	

編集後記

※47年5月に生まれたこのニュースも、おかげさまで通算50号となりました。サッカーを愛するみなさんのご支援がなければ、このような機関紙がここまで発展することはなかったでしょう。本紙をご愛読くださるみなさんに心から感謝いたします。50号を迎えるにあたり編集部では、神様ペレ選手と日本サッカー界の王様・釜本邦茂選手にお願いしたところ、お二人から快くお祝いのご言葉をいただきました。※またしてもワールドカップ本大会への夢は消えた。代表チームはモスクワオリンピックをめざしているというが、ワールドカップで負けてオリンピックに勝てるという保証はない。われわれサポーターにとって、もう随分と歯がゆい思いが続いている。しかし、道は遠くてもいいけれど、いつも希望だけは抱いておきたい。(ウエノ)



1977 4月号

発行所
神戸市サッカー協会
神戸市灘区上野通6丁目3-12
TEL (078) 861-3100
発行人 加藤正信
編集人 辻豊
購読料 1部20円
毎月1回10日発行

50号おめでとう!

ペレ、釜本選手からメッセージ

ニュース「神戸のサッカー」

50号発行おめでとう。神戸の青少年のサッカーが今後ともすばらしく発展することを心から祈ります。

—ペレ—

0550-3346
PEPSITO J24319
NEW YORK CALLING TOKYO
TELEX 455
3/4/77
HOPE SOCCER NEWS C/O MR. N. NINOMIYA, PEPSICO(JAPAN), LTD.
*CONGRATULATIONS ON THE NO. 50 ISSUE OF HOPE SOCCER NEWS AND BEST WISHES TO THE SUCCESS OF YOUTH SOCCER IN KOBE!
PELE
PEPSITO J24319,3346
03/04/77 1554 EST

50号紙発刊に当たり

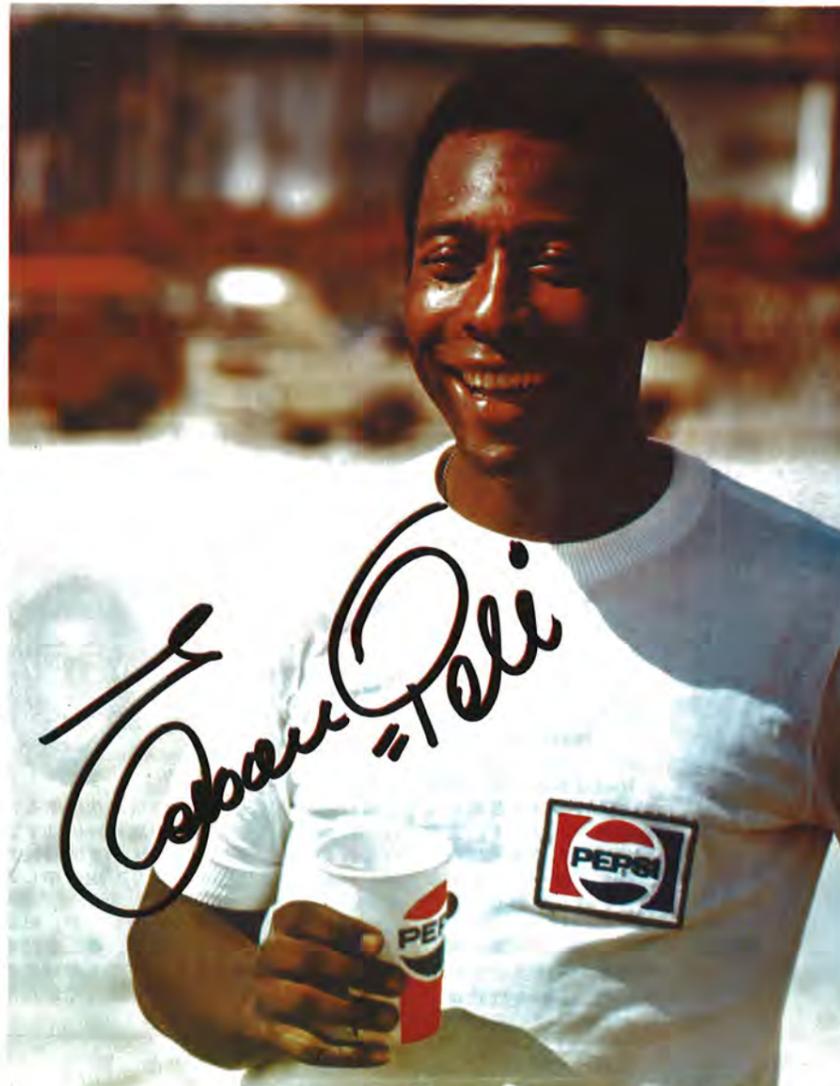
神戸市協会長 河本春男



サッカーの月刊新聞「神戸のサッカー」が50号を数えるに至ったということは、サッカー神戸の層の厚さを物語るものと、誠に心強くおめでたく存じます。創刊以来、編集関係者の非常なご努力によって、月とともに内容が充実し、サッカーファンのニュースソースとして楽しみな読み物となって参りました。読者層も青少年から壮年さらに婦人層に至るまで、広い読者を得ているということは誠に喜ばしい次第です。

サッカー王国神戸の再現を念じている皆様のご期待に応え、優れた選手やチームが育つためには、その活躍の状況をより多くの人々により早く伝え、それによって選手諸君を励まし称えることが大切です。

今後とも皆様から原稿をお寄せいただき、一層楽しいサッカーニュースを多くの方々にお伝えできることを使命として参りたいと考えております。皆様方の温かいご支援をお願いしてごあいさついたします。



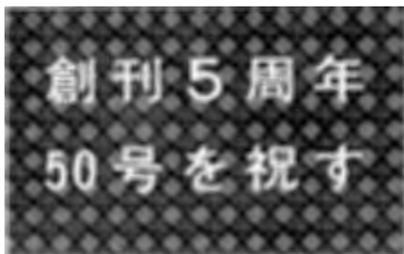
少年の成長を祈る

釜本邦茂

私は昨年6月に東灘へ引っ越し、神戸の住人となりました。神戸市協会が毎月1回発行している機関紙「神戸のサッカー」を、いつも楽しく読ませていただいております。4月で創刊以来、50号を迎えるというのを聞き、関係者各位のご努力に大きな敬意を表します。今年の新年号で、私と少年たちと

座談会を企画され、また毎号にわたって青少年のサッカーを育てようという意図のもとで編集してられる様子を拝見し、少年の育成が急務であると、考えている私にとって心強く感じられます。この小さな新聞が、サッカー仲間へ情報を与え、少年、青年、OBのサッカーマンの手を結ぶ大きな力となり、兵庫・神戸のサッカー発展にますます大きく寄与されんことを心から祈ります。

の座談会を企画され、また毎号にわたって青少年のサッカーを育てようという意図のもとで編集してられる様子を拝見し、少年の育成が急務であると、考えている私にとって心強く感じられます。この小さな新聞が、サッカー仲間へ情報を与え、少年、青年、OBのサッカーマンの手を結ぶ大きな力となり、兵庫・神戸のサッカー発展にますます大きく寄与されんことを心から祈ります。



財団法人 日本協会長 平井富三郎



このたび神戸市協会が47年5月に機関紙「神戸のサッカー」の創刊号を発行して以来、今月で50号を迎えられることに心からお祝い申し上げ、あわせて編集に携わってられる方々に深く敬意を表したいと存じます。

神戸は以前からサッカーの盛んなところであり、古くは神戸クラブ、六甲クラブ、神戸一中、全関学などの活躍が思い出されます。また、近年にいたりましてはサッカースクールを中心とした少年をはじめ青年、壮年、女性チームまで地域に密着したスポーツとしての発展に、絶えざる努力を重ねてこられ、めざましい成果をあげられてきています。こうした努力が、神戸ひいては兵庫が「サッカー王国」として、再び脚光をあげることに繋がると信じております。

50号発行を契機に、地域のサッカーの普及、振興のため、ますます結束を固め一層の飛躍と発展に奮闘されて、サッカーマン各層の期待にこたえられるよう切望し、ご祝辞といたします。

関西協会長 玉井 操



発行50号を迎えられ、日ごろのご精進とご労苦に対し深く敬意を表し、お喜び申し上げます。

「神戸のサッカー」のニュースは今や神戸地域はもとより、兵庫さらには日本各地からもその業績が高く評価されております。文字によって表現される記録や写真は永久に残る貴重なものであると同時に、読者に大きな楽しみと反省をもたらせ、さらに新しい努力を決意させます。

愈々の研鑽を重ねられ、広くサッカー界に寄与されるようお願い申し上げます。

サッカー王国の再興を願う情熱と行動が、輝かしく燃え続けることを祈ってやみません。

関西協会理事長 吉江 経雄



50号発行に心から敬意を表するものであります。「神戸のサッカー」が記念すべき50号を迎えられたことは、加藤先生を中心に全員が兵庫・神戸のサッカーを盛り立てている証拠であります。

最近の紙面は実にバラエティー豊富で写真も美しくなり、日本でも唯一の「ニュース」紙でないかと思えます。100号が刊行されるのもそう遠い日ではないでしょうが、100号の紙面はおそらく一段と充実した素晴らしいものであると楽しみにしております。

兵庫協会長 砂田 重民

「神戸のサッカー」50号の刊行を心よりお喜び申し上げます。

創刊以来約5年、その間少年サッカーの活躍を中心に、常に汗と涙の青春ドラマをそのままに再現される筆致と編集技術は次第に好評を博し、サッカー王国兵庫にまたしても一つの名物が誕生しました。

今後はさらに、わが国サッカーの普及と向上に最も役立つ権威ある機関紙へと躍進されますよう、心よりお祈りしてお喜びのことばといたします。

兵庫協会理事長 高砂 嘉之



神戸市協会がこのたび記念すべき50号を発行されましたことは、誠に同慶の至りでございます。

兵庫のサッカー界におきましては、指導者をはじめとする関係者の方々の献身的なご努力の結果、青少年サッカーの普及はめざましいものがあります。一昨年の国体で、兵庫高校選抜チームが全国の強豪が集う中、みごと準優勝をおさめるなどサッカー兵庫の再興のきざしが見え始めております。これを機会に関係者一同、手を取りあって力強くさらに前進したいと存じます。

「神戸のサッカー」が兵庫・神戸のサッカー興隆を推進していく上で、欠くことのできない存在として、今後ともますます充実せんことを心からお祈りし、ご祝辞といたします。

淡路協会理事長 小松 実



「私のところではこんな機関紙を発行することになりました」と、加藤先生より手渡された「神戸のサッカー」の創刊号……。

以来約5年もの間、機関紙とともに力強く、しかも着実に文字どおり限りなき前進を続ける神戸市のサッカーを目の当たりにするにつけ、新聞の果たした功績を高く評価せずにはいられません。そして記念すべき50号発刊に際し「おめでとう」と心よりお祝い申し上げます。

私の夢は「花とミルクとオレンジ」の淡路にサッカーを加えることです。そして健康で明るい島づくりのお手伝いができればと考えております。ともに手を取り合ってがんばりましょう。

明石市協会長 堂本 晋三



創刊以来50号を迎えられ、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。日本におけるサッカー歴史の最も古い神戸で、神戸市協会副会長・加藤正信先生を中心に編集部の方々のご努力が「神戸のサッカー」の活字となり、身近にサッカーニュースを伝えていただき大変参考になっております。どうぞ今後とも大変なご苦労とは思いますが、サッカー王国の再現のためにもたゆまぬ努力を続けて、ますますサッカー仲間へ期待されるニュースを提供して下さることを祈ります。



龍野市協会副会長 位飼 政之



一つのボールを囲み、少年から社会人まで健康で明るい生活をめざしてもう十数年。神戸の皆さんの親切なご指導を受けて、龍野地域にもサッカーがしっかりと定着してきました。なかでも少年サッカーの成長はめざましく、40チームあまりの登録を数える協会になりました。心から感謝いたしております。

毎月送ってくださる「神戸のサッカー」が50号とは、まったく素晴らしいことです。心からお祝い申し上げます。全国に名をとどろかせ、歴史と伝統をほこる神戸・兵庫県人は夢ふたたびと願っております。

100号、200号までも…



大仁邦弥

神戸高を出て14年、大学、会社の関係でずっと東京住まいですが、神戸は懐かしい故郷です。「神戸のサッカー」を拝見するたびに、中学や高校時代が走馬燈のように脳裏に浮かびます。特に神戸のグラウンドで、先輩の岩谷俊夫さん（編集部注：後に東京オリンピック全日本強化コーチ、45年3月死亡）や高山忠雄校長に手とり足とり教えてもらったことを思い出します。

この機関紙が50号を迎えられることは、まったくおめでたいことであると同時に驚異に値することで、発行に携わる方々のご努力に敬意を表します。今後とも100号、200号と重ね、全国サッカー界に垂範していただきたいと思っております。（日本代表選手）

大仁葉子

50号を迎えられるとのこと誠におめでとうございます。女性レフェリーとして初めて笛を吹かせていただいていたから、早いものでもう10年になります。毎月「神戸のサッカー」を読むたびに「あのころの少年たちや女性サッカーのお嬢さんたちは今ごろどうされていらっしゃるのかな」と、いろいろな思い出が胸に浮かんできます。これからますます素晴らしい機関紙として、何百号と続いていかれることを心からお祈りします。

【編集部注】大仁葉子さんは旧姓村越さん。昭和42年第1回兵庫サッカーカーニバルで我が国初の女性レフェリーとして登場し、王子競技場に集まった観客を沸かせた。

あなたが つくる 読者のひろば



ぼくとサッカー

ぼくはサッカーを習ううまくプレーできたらよいと思っていましたが、それだけでなく心もきたえるということを知りました。暑い夏の練習や寒い冬の練習日は、ぼくの心の中で「休みたいなあ」という気持ちが強くでてきますが「やっぱり行こう」と思ってグラウンドへ向かいます。そして練習が終わった時は、しんどいけど「休まないでよかった」と思いながら帰ります。

でも試合の時、思うようにプレーできなかったり、反そくをやった時はいやな気分になります。また反対に、シュートがきまった時やじょうずにパスできた時はうれしい気持ちになります。あんまりそんないいことがないので、もっともっと練習をまじめにしないとだめだと思いました。ぼくは勉強よりサッカーの方が好きだから、練習のある日には必ず行くことにします。



福住小5年 三浦史朗

どしどし ご応募を

読者のひろばは皆さんがつくるページです。思い出に残った試合のこと、失敗談、サッカー仲間と呼びかけたいこと、あるいは協会や本紙に対する要望などどんな内容でも結構です。詩や写真も大歓迎。住所、氏名、年齢、電話番号を明記のうえ毎月10日までにお送りください。

〒652 神戸市兵庫区東山町3丁目2 川崎重工東山寮 上野勝幸

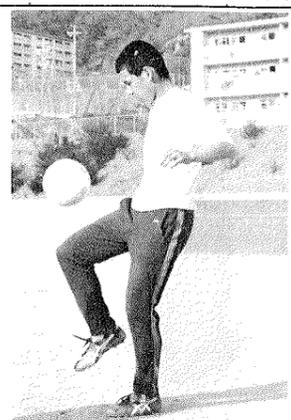
一番重要なもの

本山中3年 前田健雄

ぼくがサッカーを始めたのは小学校3年。約5年ほどサッカーをやってきたが、最近やっとサッカーというものがあるのか分かってきて、また自分はどうなサッカーを目指しているのかということがはっきりしてきた。サッカーに限らず、どんなスポーツでも「人間的な強さ」というものが一番重要だと思う。勉強とサッカーを両立させる意志の強さ、テレビ、漫画、そのほかいろいろな遊びなどの誘惑に打ち勝つ強さ。そういうものがなければ、いくら多くの練習をしても結果はたいしたものにはならないと思う。

西独のクラマーさんが、こういうことをいってさうだ。「日本の大学生はヨーロッパのプロ以上の練習時間をもちながら、なぜ進歩しないのだろうか。昨年ちょっとうまい選手だと思って印象に残り、今年はどのくらい進歩したか楽しみにして見るのだが、まったく進歩らしいものが見当たらない。何とかして進歩の跡を見つけようと思えばめがね

が必要だ」と。これは日本の大学生の練習時間が多いため、練習に集中する自覚という集中力が足りないんじゃないか。そういう意味では、今ぼくたちは勉強の量が多く、サッカーに十分な時間をさくことはできないが、そのわずかな練習時間を心から貴重なものと感じ、全集中を集中すれば長時間ただなんとなくタマケリするより、ずっと効果があると思う。期末試験が近づき勉強に追われるある日、ふとこういうことを感じた。



思い出に生きるサッカー

中田裕子 西代中1年

5年生のはじめ、私は先生に「サッカー部への入部はまだ」とよく聞いたものだった。姉がゴールキーパーにいたためか、私もサッカーにあこがれて、入部するのがまちどおしくらいだった。けれどもばかな私は入部する少し前に病気になるって入院し、サッカー部への入部は夢となって消えてしまった。5年生の終わりのころ退院したが、運動することさえも禁止され、先生のご好意でマネージャーとしてサッカー部へ入れていただいた。でも

みんなの練習姿を見るのは思ったよりつらい。だが、たえてマネージャーを続けた努力の結果か、順調に快復が進み練習することは許された。その時ほどうれしいことはなかった。それから後、いろいろな練習を積み重ねた。はじめはバックだったが後はレフトハーフ。トラッピング、ヘディング、バックパス、ボールリフティングやシュートの練習。同じ学年でありながら、みなと同じようにできない私であったが、一生けん命がんばった。病気になるハンディーさえなければとくやんだこともある。

私にとってサッカーはなつかしく美しく心の中に生きている。そしてつくづく思う。「サッカーをしていて良かった」と。

フォトサロン



「チャンス」藤田 三穂 アサヒペンタックスSP、望遠レンズ300ミリ、ネオパンSSS、絞りF18、1/500秒。

◎本紙は次のスポーツ店にもあります。

関正スポーツ 生田区下山手通6丁目65 ☎078(371)0857 兵庫県庁300m西側

灘スポーツ 灘区倉石通5丁目1-8 ☎078(861)4671 市バス水道筋6丁目上がる100m東側

ヤマダスポーツ 灘区熊内通6丁目3 ☎078(241)9317 灘小学校前

塩谷スポーツ 兵庫区大開通7丁目5 ☎078(576)0870 パンドウ化学南

若人よ 吹き出す汗 その一筋に 君のあふれる若さがある 太陽と土と君が創った みずみずしい絵画の展開 そのひとこま ひとこまに 君のあふれる力が見える 君のその柔軟な動きが がむしやらのむき出しの感情が 土をけり ボールを追い 若いひとしづくにぬれ 私の瞳のキャンパスに 青春の詩を描き出す (神戸市立基合高3年) 宮本 まり

神戸のサッカー50号. 5年のあゆみ



Peppi-Cola and Pepsi-Cola registered trademarks of Pepsi-Cola, Inc. Another Quality Product of Pepsi-Cola, Inc.

Bottom section containing various advertisements and notices. Includes:

- 加茂 (Kamo)** brand advertisements for shoes and clothing.
- イレアン (Iran)** advertisement for a product.
- カサンド (Kasando)** advertisement for a beverage.
- NOW color** advertisement for a product.
- Small notices and text blocks, including one mentioning 'サッカースタジアム' (Stadium) and '入場券' (Tickets).